

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 6月28日更新

事務事業名		スポーツ体験教室開催事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也	
	施策	22	生涯スポーツの推進					所属課	生涯学習課	担当者名	山田 清	
	基本事業	71	スポーツへの参加機会の提供					所属班	スポーツ振興班	(内線)	1519	
予算科目		会計一般	款10	項6	目1	事業連番10773	法令根拠	スポーツ振興法			成果優先度評価結果	①
										コスト削減優先度評価結果	⑫	
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)				

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	サッカー・卓球・ミニバレーボール・剣道・エアロビクス・トランポリン・ゴルフ・ヨガ・リズム体操・バドミントン・バレーボール・ピラティス・テコンドー・骨盤リセット・ボクササイズ・スンバ・テニス・フラダンス教室等にそれぞれ各種目協会等から講師を派遣してもらい、スポーツを体験する場を提供した。市民のスポーツへの意欲を喚起、スポーツ未実施者の掘起こしときっかけ作り、スポーツの日常化を目的としたスポーツ体験教室として開始された。平成24年度も2期41教室、参加者630名となった。開催種目も参加者のニーズに沿ったものを用意し、老若男女問わず参加できるように工夫をしている。このうち、協会があるサッカー・卓球・ミニバレー・剣道・バドミントン・バレーなどは、体育協会の加盟団体であるため、体育協会の事業として平成25年度より行う。
【業務の流れ】	各講師と事業内容協議、施設利用申請、募集冊子作成、申込受付、受講生決定・通知、開講式出席、受講料徴収・収納、開講式出席、報償費・委託料支払事務
【主な予算費目】	時間外勤務手当、賃金、報償費、消耗品費、役務費、委託料、使用料及び賃借料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	・住民からは感謝のことばをいただくことがある。 ・教室によっては募集人員に制限があるものがあり、抽選にもれた人からの苦情もある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動)24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
前期(5月～8月)は14種目・19教室に304人が参加、後期(10月～2月)は16種目・22教室に326人が参加した。前期ではトレーニングルームを活用した教室を開催、後期はベリーダンス等の人気のある教室を開講したため、申込者も増加した。		毎年度、人気がある教室の実施と、新しい教室を入れていく予定。体育協会加盟の種目協会主導の教室も開催の予定。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ア:参加者数	人	産休代替による臨時職員賃金の増	
→イ:開催教室数	教室		
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民		→ア:市民	人
		→イ:	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
さまざまなスポーツを体験する		→ア:参加者数	人
		→イ:	
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠			総トータルコスト全体計画～年度
市民一人、1スポーツを目指し、できるだけ多くの市民に参加してもらうため。平成25年度目標値は前年度までの実績を踏まえ設定。			0

(2)各指標・総事業費の推移											
		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込	
① 活動指標	人		841	794	950	780	800	800	800	800	
	教室		39	27	40	35	40	40	40	40	
② 対象指標	人		55,828	56,638	56,222	57,206	57,377	57,925	58,474	59,000	
	イ										
③ 成果指標	人		841	553	905	630	950	950	950	1,000	
	イ										
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	1,819	952	830	1,779	1,480	1,180	1,180	
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	1,188	962	1,989	906	2,013	1,500	1,500	
	(A)事業費計	千円	3,007	1,914	2,819	2,685	3,493	2,680	2,680	2,680	
		(A)のうち指定経費	千円	701	577	887	560	787	0	0	0
		(A)のうち時間外・特勤	千円	701	577	887	560	787	950	950	950
	人件 費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5	5	4	
		延べ業務時間	時間	57	173	123	173	123	123	123	0
		(B)人件費計	千円	234	698	496	0	496	496	496	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	3,241	2,612	3,315	2,685	3,989	3,176	3,176	2,680

事務事業名	スポーツ体験教室開催事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 予算内で、目標値を高く設定しすぎていて、目標値までの募集ができなかった。
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 体育協会へも協力を要請し、教室数を増加させる予定で、目標達成の見込みあり。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある⇒【理由】 予算、場所、講師の問題がクリアされればさらに向上する。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない⇒【理由】 総合型地域スポーツクラブや、各競技種目協会との連携の拡大により、成果の向上が期待できる。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 現在も講師謝金は低額に抑えており、削減余地は無い。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある⇒【理由】 各種目協会との連携により効率的に行っている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 参加者に2千円の負担をお願いしている。（ゴルフ教室は6千円）
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある⇒【理由】 市民がスポーツに親しむためのきっかけづくりの事業であるため、行政が行うべきである。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

教室開催には会場確保が必要であるが、定期的に空いている会場が少ない。
体験教室であるが、低料金で受講できるために同じ人が同じ教室に何度も参加するケースが見受けられる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												